

# 日本には美しさと醜さが 共存している

## Coexistence of Beauty and Ugliness in the Japanese Culture

### Alfred LANG

アルフレッド・  
ラング

**野口** あなたは最近、環境心理学、とくに住まいと人間行動との関係について研究しておられるようですが、2か月以上日本に滞在して、日本の住まいをどう思われますか。

**ラング** 家は家族集団の容器ですが、たんなるシェルターではなく、文化が作り上げたものです。日本の家はまだ一戸建のものが多く、またその様子からいって、家族関係をそこなわない形を残しているように見受けられます。日本では、とくに伝統的な家屋は門と塀さらに樹木によってとり囲まれ、街路から家の中が見えないようになっています。それに対して、ヨーロッパの家は街路から見える「顔」をもっています。

**野口** 家と街路を隔てている境界が重要だということですか。

**ラング** そうです。境界はたんに地理的境界ではなく、その家の家族関係を緊密にする役割をもっているからです。

**野口** 日本の家はヨーロッパと比べると貧弱だといわれていますが。

**ラング** そんなことはありません。屋根ひとつとっても、ヨーロッパのそれはただ機能的であるのにすぎませんが、日本の家は家族を覆い包んでいることを表わす象徴といえます。門もそうです。

**野口** あなたの理論では、住まいは家族の自立と統合を調節するものである、ということになっていますが、具体的にその例を示してくれませんか。

**ラング** たとえば、伝統的な日本の家にみられる門や塀は内部の家族のグループ・アイデンティティ、すなわち家族構成員の統合を強化するものとみることができます。ヨーロッパの家はこのような強固な境界をもっていません。これはグループ・アイデンティティが希薄で、むしろ個人のアイデンティティ、すなわち個人の自立が尊重されるという文化に関係しています。このことは、歴史的、文化的要因が家の

の作りに影響を及ぼし、家の作りは家族関係や個人の意識や行動に影響するという「個人と環境との間の相互作用」を端的に表わしています。

**野口** 次にモビリティあるいは交通行動についてどのような印象をもたれたかを伺いたいのですが。

**ラング** まず旅行の仕方について印象的だったことは、日本人の荷物の少ないことです。私の想像では、日本人の旅は期間が短く、2、3日でしょうか、自分の家と旅先を往復するだけの、いわば点と点の旅なのでしょう。このような旅はヨーロッパでは例外的で、少なくとも1週間、10日間をとり、目的地だけではなく、あちこち巡るという線また



スイス・ベルン大学心理学教授、スイス心理学会誌編集委員長。住まいの建築様式と人間行動との関係について比較文化的に研究するため来日。

は面的な旅をするのが一般的です。

ヨーロッパでは日本人のグループ旅行が目立ちますが、日本国内でもそれが多く、とくにバス旅行が多いのに驚きました。

**野口** 日本でも若い人たちは一人か数人で旅行するのを好むようです。道路交通とその安全については

インタビューー

# 野口 薫



本学会員。千葉大学教養部教授。空間知覚とくに錯視・ゲシュタルト知覚、運転者行動とくに知覚行動の研究に従事し、交通心理学の概念的枠組みづくりに取り組んでいる。

でしょうか。  
**ランク** 道路環境には問題があるようです。とくに多すぎる広告や標識は日本語が読めないので区別できませんが一知覚負荷が重くて、運転者の情報処理能力を超えているのではないかと思います。それにしても事故とくに死亡事故が欧米に比べて少ないのにびっくりしました。スイスでは年間約千件の死亡事故がありますが、これは人口、車両台数からいって、日本よりずっと高い比率になります。西ドイツでは事情はさらに悪いです。

この事故の少なさは、私の観察によれば、運転者の「礼儀正しき」と「防衛的態度」に関係するといえます。運転者がたがいに相手を配慮する場面をよく観察しました。

**野口** そうですか？ スイスの運転者のほうが相手をよく配慮し、防衛的ではないですか。

**ランク** スイスの平均的運転者よりも私は防衛的に運転するほうですが、その私からみても、日本の運転者のほうが概して慎重だと思います。ドイツやフランス、イタリアの運転者がいかに攻撃的であるかは、あなたもよく知っていることではないですか。

しかし、日本の運転者には、自分が直接対面している人に対しては配慮があるのに、そうでない場合は無配慮になることもあるようです。たとえば、そこに駐車したら他の運転者に迷惑をかけることは明らかなのに、かまわず駐車して、車から離れて行ってしまふ。「人に対する配慮」と「物(車)に対する無配慮」という二面性があるようです。そういえば美的感覚にも二面性がみられます。料理や庭園に典型的に表現されている美的配慮と、広告や電柱、不統一な建物で満たされた町並みの醜さという二面性です。

**野口** 交通渋滞についてコメントはありませんか。

**ランク** 「じゅうたい」で思い出したのですが、日本の運転者は停車時にもエンジンを回し続けていますね。スイスでは渋滞時や赤信号などで5秒以上停止するときには、エンジンを止めることになってい

ます。これは大気汚染を防ぐとともにエネルギーの節約にもなります。ある見積りによると、10-15%のガソリンの節約になるといいます。

**野口** 法的に義務づけられているのですか。

**ランク** まだいくつかの都市に限定されていますが来年には全国的に義務づけられるでしょう。日本では渋滞が激しいし、赤信号の点灯時間が長いので、もっと効果が上がるでしょう。バスやタクシー、トラックにも適用されるべきです。

**野口** いい提案ですね。ただ日本ではエアコンを使用する問題があります。

**ランク** 水準の高い日本のエンジニアにとって格好の研究対象になり、バッテリー関係の問題は容易に解決されるのではないですか。

**野口** 最後にお聞きしたいことは、日本人のライフスタイルについてですが。

**ランク** すぐには答えられない質問ですね。これからどう変化するか分かりませんが、現在の日本にみられる社会的絆は羨ましいと思います。今後これを個人の自立とどう調和させていくかが課題となるでしょう。欧米では、とくに高度に工業化されたところでは、社会的絆が弱くなり、個人化が進んでいます。個人化は「孤立」「淋しさ」につながり、最終的には「ライフセーフティ」を脅かすものです。日本が他の先進国よりずっと安全だといわれるのは、この「個人化」に対して社会的絆が歯止めの役割をしているからでしょう。

**野口** 具体的な提案や含蓄のある洞察を示してください、どうもありがとうございました。

インタビュー後記

（昭和62年6月2日実施）  
 上環境整備する心理学的の力を折ることを折る。比較  
 彼百枚のスライドを二千  
 彼で日本に撮影したとい  
 彼日本を写真気遣いし  
 研究は行かず、こちらより  
 疑ったのは系統的に文  
 のだといったりするの  
 が人との絆を強めるも  
 毒舌家の彼が多かった  
 意外なことが多かった。  
 の、日本の友人である彼